

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00537

研究課題名(和文)1940年代の若手文学者ネットワークと「世界文学」概念：福永武彦を軸に

研究課題名(英文)The Young Literature Network and the Concept of "World Literature" in the 1940s:
With Takehiko Fukunaga as the Axis

研究代表者

中島 亜紀(西岡亜紀)(NAKAJIMA NISHIOKA, Aki)

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：70456276

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：福永武彦を軸として1940年代日本の若手文学者の「世界文学」概念をめぐる人や知のネットワークを解明した。彼らの文学の萌芽期に盛んに議論された「世界文学」概念の全体像、その言説を作り出した教育、先行作品、共通体験、人のつながり、彼らの実作や同時代・後続の文芸への波及などを調査・解明を目指した。全体での『年報福永武彦の世界』第5号、6号の執筆・編集・刊行と関係機関や研究者への発送、各自での図書の執筆、論文・エッセイ・書評の執筆、口頭発表・講演などによる成果公開を行った。加えて西岡は、若い世代と表現に関わる現役の研究者や演者が交流する場の創成を目指す「言語表現メディア研究会」を立ち上げた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2冊の成果報告書や代表者、分担者2名が執筆した図書や論文は、1940年代の日本文学の背景にあった人や知のネットワークを明らかにすることによって、当時の「世界」概念との関係において創出された歴史的意義を解明する。また、その歴史がそれとは異なる「世界」概念のもとで創出されている21世紀の文芸実践においていかなる結節点を持ちうるのか、という文学史的・実践史的な学術的意義を持つ。「言語表現メディア研究会」の研究者・声優・詩人・俳優・編集者などの現役の表現者と若い学生との交流イベント「チカラプロジェクト」や、コロナ禍での表現実践を報告する例会などは、未来の表現実践者の育成という社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：This study elucidates the networks of people and knowledge surrounding the concept of "world literature" among young Japanese literary figures of the 1940s, with Takehiko Fukunaga at its core. We aimed to investigate and elucidate the overall picture of the "world literature" concept that was actively discussed during the budding period of their literature, the education that created the discourse, prior works, common experiences, human connections, and the spillover to their actual works and the literature of their contemporaries and followers. As a whole, he wrote, edited, and published the fifth and sixth issues of "The World of Takehiko Fukunaga, the Annual Report," and sent them to related institutions and researchers, wrote books, wrote articles, essays, and book reviews, and made his findings public through oral presentations and lectures.

研究分野：日本文学、比較文学

キーワード：福永武彦 世界文学 ネットワーク 1940年代 20世紀小説 加藤周一 堀辰雄

1. 研究開始当初の背景

1930～40年代に学生時代を過ごし戦後に本格的に出発した文学者たちの死から時間が経ち、草稿・遺稿・ノート類といった一次資料の収集・整理・公開が進んでいる。長崎市の遠藤周作文学館(2000年開設)、学習院大学史料館の辻邦生関係資料(2012年寄贈)、立命館大学の加藤周一文庫(2016年開設)などである。加藤文庫では資料のデータベース公開も始まった。一方で、遺族による日記や手紙などの私的文書の出版、研究者や関係者による作家論の出版も進む。『福永武彦戦後日記』(新潮社、2011年)、『福永武彦新生日記』(同、2012年)、近藤圭一・岩津航・西岡亜紀・山田兼士『福永武彦を語る 2009-2012』(澪標、2012年)、池内輝雄・傳馬義澄編『中村真一郎 青春日記』(水声社、2012年)、渡邊一民『福永武彦とその時代』(みすず書房、2014年)、鷲巣力『加藤周一はいかにして「加藤周一」となったか』(同、2018年)、遠藤周作『『深い河』創作日記』(講談社、2000年)などである。作品の背景にあった膨大な人や知のつながりが明かされつつあった。

こうした一次資料の充実、戦後に出発した世代の文学者の功績も踏まえた20世紀日本文学史の再編や21世紀への架橋を考える可能性を開いた。例えば、こうした方向性と連関する現場の動きとして、現役の作家・池澤夏樹(1945-)の個人編集『日本文学全集』『世界文学全集』(河出書房新社、2007-2017)の刊行は、重要な位置を占めるものだろう。

西岡亜紀(研究代表者)は、小説家でありフランス文学の研究者でもあった福永武彦(1918-79)におけるフランス文学の受容を主な研究対象としてきたが、2009年度より福永武彦を軸とする1930～40年代若手文学者に関する人や知のネットワークについての調査研究に着手、3期にわたる科研費の補助のもと継続している。上記のような文学史の再編をめぐる動きに応える調査が急務と考えたからである。東京、長野、長崎、広島、パリなどでの踏査から、福永を取り巻く人や知のつながりを調査した。また、そのつながりは(1)彼らを育てた明治以降の近代学問という縦軸(キリスト教、西洋語・西洋文学の受容)や(2)1930～40年代以降の国内外の文芸という横軸(同時代文学、民衆文化、光学メディア)をも含む広範な時空間を射程に入れて考察すべきという認識に及び、全体像の解明を進めた。

(1)の縦軸に関する学術的背景としては、田中貞夫『幕末明治初期フランス学の研究』(国書刊行会、2014年)、『維新とフランス 日仏学術交流の黎明』(東京大学出版会、2009年)日本仏学史学会誌『仏蘭西学研究』(1972-2016年)などにおける教育史・文化史研究の蓄積がある。しかし、これらを日本文学の生成と関連づけるものはまだ少なく、倉方健作「フランス近代詩と学問 「ボードレール研究」の確立を例に」(井田太郎・藤巻和宏編『近代学問の起源と編成』勉誠出版、2014年)や西岡亜紀「近代日本のフランス語教育の起源と編成 宣教師の果たした役割」(同)などが先駆的である。(2)の横軸に関する学術的背景としては、福田耕介・海老根龍介編『異文化の中の日本文学』(弘学社、2013年)、井上隆史編『全体と部分』(同、2015年)、坂巻康司編『近代日本とフランス象徴主義』(水声社、2016年)などがある。いずれも、各国文学の研究者らが協力して「世界」観の変容も含む大きな枠組みのなかで各国文学を読み直す試みであり、西岡も執筆者に加わっていた。

一方、近年、モレッティ(Moretti 2013)やダムロッシュ(Damrosch 2003)やダーエン(D'haen 2011)らが提起した「世界文学」概念が、比較文学研究を中心に盛んに議論されている。こうした議論は、文学研究が事実上各国文学研究になっている現状や、欧米中心に形成されてきた「世界文学」概念に対するアンチテーゼとして持ち上がったものである。各国文学の研究者が協働する研究体制もこれと無関係ではなく、たとえば『文学』の特集「世界文学の語り方」(岩波書店、2016年9/10月号)はその好例である。こうした「世界文学」全体の見直しのなかで、1940年代に『世界文学』(1946-50)、『世代』(1946-47)、『人間』(1946-51)などの文芸誌を中心に議論された「世界文学」概念の再検討も進む。本研究に関わる西岡亜紀(比較文学)、岩津航(フランス文学)、戸塚学(日本文学)も、2017年の日本近代文学学会でのパネル発表「『1946・文学的考察』における世界文学のプログラム」以降、この新しい研究角度を意識したいくつかの問題提起を行っていた。

以上のような学術的背景を受けて設定したのが、1940年代日本の若手文学者の「世界文学」概念とはどういったものか。彼らの受けた教育、読書傾向、先行作品、共通体験はそれをどのように準備し、その後の彼らの実作や同時代・後続の文芸にどう波及したのか、という本研究課題の核心をなす学術的「問い」である。

2. 研究の目的

本研究は、福永武彦(1918-79)を軸として、1940年代日本の若手文学者における「世界文学」概念をめぐる人や知のネットワークを解明するものである。当時の「世界文学」概念とはどのようなものだったのか。彼らの言説を作り出した教育、先行作品、共通体験、人のつながり、彼らの実作におけるテーマ・形式への展開や同時代・後続の文芸への波及といった、総合的なネットワークを調査・解明する。それを踏まえ、当時の「世界文学」のネットワークに連なる作家や作品を中心とする系譜の構築を目指す。「世界」の変容のなかで、1940年代に夢見られた欧米の文

学や思想に依拠する「世界文学」は改めて見直される時代となった。しかしだからこそ、彼らの時代に議論された「世界文学」概念をその背景とともに相対化し、そのうえで現状の「世界文学」概念と対比することが、彼らの時代から未来の文学に何をつなぐべきかを模索するうえで意味があると考えられる。

学術的独自性は、主に以下の二点である。一つは、人や知のネットワークを同時代の文学の小集団だけにとどめない縦軸と横軸のなかで捉え、調査や分析を行うことである。縦軸は明治以降の近代学問の系譜である。当時の「世界文学」概念の前提となった、西洋語・西洋文学の移入や編成、キリスト教との関係、旧制高校や帝国大学の教育、先行作家や作品、共通体験といった視座である。縦軸の分析は、戸塚学（研究分担者）と連携して行う。福永や加藤の先達にあたる堀辰雄（1905-53）に精通する戸塚により、短詩系文学や翻訳も含む、先行の日本文学で準備されていた「世界文学」に関する言説や世代間のつながりが示唆される。横軸は1940年代以降の国内外の文芸とのつながりである。欧米も含む同時代文学、民衆文化、光学メディアとの関係という視座である。横軸の分析は岩津航（研究分担者）と連携して行う。フランス文学及び加藤周一（1919-2008）と福永の双方に通暁する岩津により、福永の小説と加藤の評論との異ジャンル間の関係、フランス体験のある加藤とない福永との比較なども射程に入れた立体的な見取り図を設計できる。もう一つの独自性は、若い聴衆に軸足を置く成果の社会還元を目指すことである。未来の文学を担う若い学生や留学生も参加できる、教育との連携も視野に入れた公開講演会やワークショップ開催を目論む。

以上を踏まえた研究の創造性は次の二点である。一つは、同時代の他分野の研究に波及することである。単独の作家研究では解明できなかった人や思想のつながりが考究でき、伝記的事実の発見や新視点の開拓、同時代の文化史や科学史との往還も期待できる。もう一つは、若い世代を意識した成果の社会還元により、未来の文学につなげる活動を目指すことである。

3. 研究の方法

本研究の当初の計画は、2019～2021年度の3ヶ年で行うというものであった。メンバー3名は金沢、東京、京都と分散しているため、基礎研究としての調査・分析・成果発表は、基本的にはその都度各自で行う。ただし、情報の共有と成果発信を兼ねるwebサイト（HP）を設定する。一方、共同で行う成果の還元として、教育連携を視野に入れた公開講演会やワークショップなどを、年1回、共同で開催する。会場は立命館大学、打合せは東京か金沢で行う。具体的な計画は以下。基礎研究：研究成果発表も含めて各自で行い、webサイトにて情報共有（一部公開）する。

西岡亜紀（研究代表者）：これまでの福永武彦を軸とした調査研究を「世界文学」概念との関わりに焦点化して継続、福永のフランス文学理解を生み出した歴史的・文化的文脈を考察する。とくに、東京大学ほか当時の教育体制の調査・分析、1940年代日本における『新フランス評論』ほかフランス語文献の移入状況の把握、フランスのパリ外国宣教会（MEP）、日本館の踏査を行う。また、公開講演会、ワークショップなどの企画、HP設定を統括する。

岩津航（研究分担者）：加藤周一のフランス文学理解を同時代フランスにおける批評と比較考察することで、彼がフランス文学に読み込んでいたものを検証する。そして、加藤のフランス文学理解の特徴を生み出した歴史的・文化的文脈を考察する。具体的には、彼が読んでいた『ウーロップ』や『新フランス評論』をフランス国立図書館で調査、そこで展開される言説の特徴を把握し、フランス文学に立脚した当時の加藤の批評がもつ射程を明らかにする。

戸塚学（研究分担者）：堀辰雄から中村真一郎や福永武彦に何が引き継がれたのか、また堀を中心に集まった若い文学者達がどのような書物や知を共有していたのか、具体的な作品分析や彼等の言説の分析を通して明らかにする。また、三好達治や中原中也らフランス語を学んだ同時代の詩人達にも視野を広げ、彼等の教養の基盤やその作品への影響を考察する。それらの背景として、堀辰雄の旧蔵洋書の書き込み調査などの一次文献の調査・公開を進める。

成果の社会還元：若い聴衆に軸足を置いた成果の教育・社会還元を、三者の共同で行うために、年1回のペースで、公開講演会、ワークショップ、連続講座などを開催する。2019年の福永武彦没後40年記念公開講演会（遺族の池澤夏樹氏に交渉中）をはじめ、作家や演劇人なども交えた連続の社会人講座や学生参加型のワークショップなどを開催する。海外の論客や留学生も加え、過去から未来、異言語間など多様な次元で世界の文学の結節点を模索する。

上記のように、当初は3ヶ年計画であったが、COVID-19の影響で主に実地踏査や成果公開の面で大幅な予定変更を迫られたため、結果的に4ヶ年の活動になった。全体的に、実地踏査や対面の学会等での成果還元等から、各人での座学をもとにした執筆活動、Zoom講演、Zoomでの会議や対談等に対応できる範囲で対応した。また、メールやzoom等を活用して『年報 福永武彦の世界』の執筆・編集を行った。2022年度後半あたりから、各自、近隣の大学関係機関を中心に出張や実地踏査を、できる範囲で復活させた。

4. 研究成果

2019年度は、基礎研究及び個々の学会等における成果公表は、研究者ごとに行った。研究代表者・西岡は、福永武彦及び同時代作家、出版史、小説理論、近代日本のキリスト教宣教師、最新の小説動向などを中心に、新たな文献資料の拡充を図った。また、図書の実担執筆を含めて3本の関連論文を執筆、チューリッヒ国立博物館における講演1件、学会の支部例会におけるシンポジウムの企画運営と司会を1件行った。研究分担者・岩津は、在外研究先のフランスにおける

資料探査、トゥールーズ大学における講演2件、関連論文1本の執筆、『草の花』仏訳書の出版準備などを進めた。研究分担者・戸塚は、図書の分担執筆も含めて6本の関連論文の執筆、国内の学会における講演1件と精力的な成果還元を行った。上記に加えて、西岡は、立命館大学で開催された「加藤周一生誕100周年記念シンポジウム」における講演者の一人である池澤夏樹（作家、福永武彦の実子）の招聘のための協力、共同研究者や学生などへの情報発信を行い、2019年度の年次講演会の一つとした。また2020年3月に刊行した『年報・福永武彦の世界』第5号では、岩津と戸塚は論文を1本ずつ寄稿、西岡は立命館大学加藤周一文庫所蔵の福永献呈本リストの寄稿、3名ともに座談会を企画運営したものを文字化した。責任編集は西岡が行った（印刷刊行費は西岡の別の科研費から支出）。なお、これらに加えて、2020年2月または3月に、学生参加型の研究会の立ち上げを行う予定であったが、コロナ禍のために延期した。

2020年度は、COVID-19の影響で国内国外ほぼすべての予定していた出張・調査を断念せざるを得なかったため、大幅な研究計画の変更を余儀なくされたが、その範囲内で、各自でできる限りの成果公表につとめた。研究代表者・西岡は、図書の分担執筆1本、日本比較文学会の中支部大会におけるシンポジウムのパネリストを1件など担当した。研究分担者・岩津は、『草の花』仏訳書の刊行、研究論文1本の執筆、研究分担者・戸塚は、関連論文1本の執筆を行った。上記に加えて、西岡は、立命館大学の学生を中心とする若い世代と現役の表現に関わる研究者や演者が、立場や年齢を越えて交流する場をつくることで、表現の未来を考えるための研究会「言語表現メディア研究会」を立ち上げた。2020年6月から2021年1月の間に、5回の講演会と2回の学生主導型の勉強会を主にリモートで開催した。講演会には、アニメーションの研究者、詩人、声優、アニメーションのプロデューサーといった表現に関わるプロを招聘した。また、若手の俳優や図書館司書など、表現の発信に携わる20代の人に、学生によるインタビューも交えた講演会も開いた。自粛体制のなかで表現をめぐる現場の実情を共有しつつ、近未来の表現発信のあり方について、皆で討論するたいへん有意義な機会となった。福永武彦及び同時代作家、出版史、小説理論、最新の小説動向などを中心に、新たな文献資料の拡充を図った。

2021年度は「教育業務に支障をきたすリスクは避ける」を前提に国内外すべての出張・調査を断念したので、大幅な研究計画の変更を余儀なくされたが、執筆活動・リモートでの口頭発表などを中心に、成果公表につとめた。研究代表者・西岡は、福永武彦及び同時代作家、出版史、小説理論、最新の小説動向などを中心に、新たな文献資料の拡充を図った。また、図書の分担1件と書評1件の執筆、報告1件、講演1件などを行った。研究分担者・岩津は、単著1件と論文1本、書評2件の執筆、報告2件を行った。研究分担者・戸塚は、共編著1件、論文2本の執筆、講演1件を行った。また、上記の岩津・西岡に山田兼士を加えて『年報・福永武彦の世界』第6号掲載の鼎談を行い録画した。福永研究の最新論文、現状、電子書籍化の動き、ポストコロナで求められることなどの議論の場を持ち、文字起こし版の校正を進めている。上記に加えて西岡は、若い世代と現役の表現に関わる研究者や演者が、立場や年齢を越えて交流する場の創成を目指す「言語表現メディア研究会」の運営を行った。

2022年度は、2019年度に続いて、報告書を兼ねた『年報・福永武彦の世界』第6号を刊行した。代表者西岡×研究協力者故・山田兼士×分担研究者岩津の鼎談、協力者近藤圭一による加賀乙彦インタビュー、戸塚の論文、岩津のエッセイ、山田の遺稿、西岡の書評（再録）ほかを収録し、西岡が責任編集・刊行、関連機関への発送を行った。上記の年報の寄稿を除く2022年度のメンバーの業績は以下。代表者西岡は、関連図書2件への寄稿（1件刊行、1件脱稿）、招聘講演1件を行い、文芸創作の教科書の執筆を進めた。口頭発表では、「言語表現メディア研究会」のチカラプロジェクトの第2回講演会、第3回ワークショップを企画運営した。分担研究者の岩津は、論文1本、エッセイ2本の執筆、戸塚は論文2本、学会発表1件を行った。

以上をまとめて、期間全体（4年間）での実績は以下。（1）全体での報告書『年報福永武彦の世界』5号（2020）、6号（2023）の刊行と関係機関・研究者への発送。（2）（1）収載記事以外で、代表者西岡は図書の分担執筆3本、論文・書評を3本、スイスでの国際学会含む招聘講演を4件、社会人講座を1件、学会のシンポジウムの取りまとめ1件、書評発表1件を行った。研究分担者・岩津は、単著1件、『草の花』仏訳書1件、論文3本、エッセイ3本、トゥールーズ大学ほか招聘講演2件、研究分担者・戸塚は、図書の分担執筆2件、論文14本、国内の学会における講演2件等、それぞれ成果還元を行った。（3）西岡は2020年に表現に関わる研究者・演者・学生が立場や年齢を越えて交流する研究会「言語表現メディア研究会」を立ち上げ、2023年3月までに研究者、プロデューサー、詩人、声優、俳優などのプロを招いた公開イベント「チカラプロジェクト」を3回、講演会・勉強会を8回開催。（4）これらに加えて、2019年の「加藤周一生誕100周年記念シンポジウム」における池澤夏樹の招聘費の提供を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計27件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 12
2. 論文標題 左川ちか訳・ジョイス『室楽』 作家の協同翻訳	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Right Margin	6. 最初と最後の頁 138-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩津航	4. 巻 準備号
2. 論文標題 加藤周一、さしあたりの原則主義者	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 加藤周一現代思想研究センター報告	6. 最初と最後の頁 127-129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 12月
2. 論文標題 女たちのモダンティ 平林たい子「殴る」 文体による支配	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 奏	6. 最初と最後の頁 24-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩津航	4. 巻 第15号
2. 論文標題 小説家加藤周一の賭け 『神幸祭』を読む	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 金沢大学歴史言語文化学系論集 言語・文学篇	6. 最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 第6号
2. 論文標題 作家の蔵書を読む 神奈川近代文学館蔵・堀辰雄旧蔵洋書	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 年報 福永武彦の世界	6. 最初と最後の頁 63-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩津航	4. 巻 第6号
2. 論文標題 『草の花』フランス語訳をめぐって アリュール先生の思い出に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 年報 福永武彦の世界	6. 最初と最後の頁 55-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田兼士	4. 巻 第6号
2. 論文標題 福永武彦におけるボードレール『悪の華』翻訳ノートについて～翻刻と解説	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 年報 福永武彦の世界	6. 最初と最後の頁 77-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩津航・西岡亜紀・山田兼士	4. 巻 第6号
2. 論文標題 【座談会】福永武彦を語る 二〇二二	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 年報 福永武彦の世界	6. 最初と最後の頁 6-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加賀乙彦・近藤圭一	4. 巻 第6号
2. 論文標題 【インタビュー】福永武彦の思い出 追分での夏	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 年報 福永武彦の世界	6. 最初と最後の頁 33-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡亜紀	4. 巻 678号
2. 論文標題 【書評】山田兼士『福永武彦の詩学』：永遠の中心紋～小説を「書く」視点から「読む」福永武彦	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 樹林	6. 最初と最後の頁 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩津航	4. 巻 17
2. 論文標題 小説を評価するための基準 『中村真一郎評論集成』第二巻	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『中村真一郎手帖』	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩津航	4. 巻 9号
2. 論文標題 【書評】三浦信孝・鷲巣力編『加藤周一を21世紀に引き継ぐために』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『ヴァレリー研究』	6. 最初と最後の頁 372-375
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩津航	4. 巻 1
2. 論文標題 「レトリックの戦場」へ向けて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『「加藤周一を21世紀に引き継ぐために」合評会記録』	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 43
2. 論文標題 女たちのモダニティ 佐多稲子「レストラン洛陽」 風景としての女給	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『奏』	6. 最初と最後の頁 56-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 42号
2. 論文標題 女たちのモダニティ 宇野千代「脂粉の顔」 都市空間を渡り行く女	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『奏』	6. 最初と最後の頁 61-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 19号
2. 論文標題 影響と翻訳の間 横光利一と堀辰雄の文学言語の転回	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 横光利一研究	6. 最初と最後の頁 2-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩津航	4. 巻 13号
2. 論文標題 加藤周一とフランス文学(2) レジスタンス文学をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 金沢大学歴史言語文化学系論集 言語・文学篇	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡亜紀	4. 巻 14
2. 論文標題 モスラが来る! 「発光妖精とモスラ」における文学の運命の隠喩	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中村真一郎手帖	6. 最初と最後の頁 21-36
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡亜紀	4. 巻 122
2. 論文標題 京に静かに響く音 道成寺の鐘、南蛮寺の鐘にまつわる交流と再生	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究紀要	6. 最初と最後の頁 263 - 278
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 38
2. 論文標題 女たちのモダニティ 左川ちか「死の髯」「言葉」-世界を二重化する言葉	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 奏	6. 最初と最後の頁 68-83
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 28
2. 論文標題 堀辰雄旧蔵洋書の調査(十五)-プルースト	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 奏	6. 最初と最後の頁 110-135
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 39
2. 論文標題 女たちのモダニティ 田村俊子「離魂」- 偏在する感覚	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 奏	6. 最初と最後の頁 68-84
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 5
2. 論文標題 堀辰雄を読む福永武彦 -モダニズムの継承	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報・福永武彦の世界	6. 最初と最後の頁 59-74
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩津航	4. 巻 5
2. 論文標題 福永武彦と堀田善衛	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報・福永武彦の世界	6. 最初と最後の頁 52-56
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡亜紀	4. 巻 5
2. 論文標題 立命館大学加藤周一文庫準貴重書庫所蔵・福永武彦関連本リスト	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報・福永武彦の世界	6. 最初と最後の頁 80-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩津航・近藤圭一・戸塚学・西岡亜紀・(紙上参加)飯島洋	4. 巻 5
2. 論文標題 座談会・福永武彦の過去・現在・未来	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報・福永武彦の世界	6. 最初と最後の頁 5-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩津航	4. 巻 17
2. 論文標題 小説を評価するための基準	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中村真一郎手帖	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 10件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 岩津航
2. 発表標題 『加藤周一を21世紀に引き継ぐために』合評会
3. 学会等名 立命館大学加藤周一研究会【オンライン】
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西岡亜紀
2. 発表標題 【書評】趙怡 『二人旅 上海からパリへ：金子光晴・森三千代の海外体験と異郷文学』（関西学院大学出版会、2021年）
3. 学会等名 日本比較文学会関西支部 2021年度 1月例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩津航
2. 発表標題 『レトリックの戦場 加藤周一とフランス文学』合評会
3. 学会等名 加藤周一おしゃべりの会 / 羊の談話室（仮称）・東京大学東アジア藝文書院（EAA）【オンライン】
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西岡亜紀
2. 発表標題 フィクションの「私」とは誰か？ ～小説から漫画まで～
3. 学会等名 立命館土曜講座 立命館大学 衣笠総合研究機構（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 戸塚学
2. 発表標題 言葉が現実を作る 平林たい子「殴る」
3. 学会等名 立命館土曜講座 立命館大学 衣笠総合研究機構（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西岡亜紀
2. 発表標題 「過ぎ去る記憶～『廃市』と『幼年』をつなぐ水のイメージ～
3. 学会等名 日本比較文学会中部支部大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Aki Nishioka
2. 発表標題 紙芝居の100年
3. 学会等名 Swiss National Museum open seminar（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aki Nishioka
2. 発表標題 アニメーションと教育 『アルプスの少女ハイジ』から世界名作劇場シリーズ、ジブリまで
3. 学会等名 Heidi from Japan: Narratives, Anime, and Swiss Receptions（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ko Iwatsu
2. 発表標題 Hotta Yoshie (1918-1998) ou comment temoigner de l' Histoire : Japon, Chine, France
3. 学会等名 トゥールーズ大学ジャン・ジョレス校日本学科 : Jeudis du Japon（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ko Iwatsu
2. 発表標題 Fukunaga, Fondane, Gary : mythes et gouffre
3. 学会等名 トゥールーズ大学ジャン・ジョレス校比較文学科 : Travaux en cours (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 戸塚学
2. 発表標題 影響と翻訳の間 横光利一と堀辰雄の文学言語の転回 (特集「<翻訳>の季節 横光利一と同時代文学」)
3. 学会等名 横光利一文学会第19回大会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 戸塚学
2. 発表標題 小林秀雄の翻訳 ランボー『地獄の季節』という「事件」
3. 学会等名 第15回英詩研究会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西岡亜紀
2. 発表標題 歴史の表舞台から消された声の物語 ~ もう一つの「平家物語」
3. 学会等名 ユリイカの会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西岡亜紀
2. 発表標題 名作の生成力『ハイジ』から『風立ちぬ』『かくや姫の物語』まで
3. 学会等名 言語表現メディア研究会 チカラプロジェクト第3回：文のチカラ
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 仁平政人・原善編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 -
3. 書名 『転生 する川端康成 : 引用・オマージュの諸相』(西岡亜紀「雪と鏡と二人の女 『雪国』と『死の島』を結ぶフィクションの文法」)	

1. 著者名 岩津航	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 186
3. 書名 『レトリックの戦場 加藤周一とフランス文学』	

1. 著者名 Takehiko Fukunaga, traduit du japonais par Yves-Marie Allieux et Kô Iwatsu	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Les Belles Lettres	5. 総ページ数 237
3. 書名 La Fleur de l'herbe	

1. 著者名 中丸禎子・加藤敦子・兼岡理恵・田中琢三編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 349
3. 書名 『高畑勲をよむ：文学とアニメーションの過去・現在・未来』（西岡亜紀「個を持った少女の憂愁 『おもひでぼろぼろ』『かくや姫の物語』の時間の表象」）	

1. 著者名 秋草俊一郎・戸塚学・奥彩子・福田美雪・山辺弦共編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三省堂	5. 総ページ数 364
3. 書名 世界文学アンソロジー—いまからはじめる	

1. 著者名 森茂起、川口茂雄ほか編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 評論社	5. 総ページ数 -
3. 書名 『アニメ表象史（仮）』（西岡亜紀「家族とともに「生きた」日常 『火垂るの墓』の兄妹の背中越しに見る風景」）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岩津 航 (IWATSU Ko) (60507359)	金沢大学・歴史言語文化学系・教授 (13301)	
研究分担者	戸塚 学 (TOTSUKA Manabu) (70633014)	武蔵大学・人文学部・准教授 (32677)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
スイス	チューリッヒ大学	スイス国立博物館		
フランス	トゥールーズ大学			